

【2006年度卒業・修了 記念特集】

勉学・研究・サークル・留学・ボランティア…

たかさんの思い出「ありがとう！」—卒業生・修了生インタビュー

※氏名に続いて学科、所属ゼミ(プロジェクト)、所属部(サークル)、出身校、進路、勤務先

● 学部

発想の原点は 生活上の必要

石黒由佳さん

ネットワーク情報学科、本江渉プロジェクト、東京都専修大学附属高=エヌ・ティ・ティ・データ

上平崇仁先生のグラフィックデザインの授業で、新しいものを生み出す面白さを知りました。3年次のプロジェクトでは、電車の中からバスの混雑具合が簡単に分かるシステム作りを仲間と共に提案。通学で生田キャンパス行きのバスが混んでいて乗れなかった経験から考えついたものです。

上平先生のご指導による卒業制作では、ICタグを利用したファッションアイテムの一元管理システムを提案しました。

いずれも生活していくうえで「こんなものがあたらいいな」という思いつきや発想が原点です。

進路は新しいビジネスモデルを考える企業に。プロジェクトや「卒制」の体験が就職活動で生かされました。

新聞配達で自立 念願の消防士に

黒田 翔一さん

法律学科、有田謙司ゼミ、宮城県古川高=東京消防庁

自立を志し、2年間新聞奨学生として朝・夕刊を配達しながら学業に励みました。夜中の2時に起き、340部を3時間かけて配り、仮眠せずに大学へ。

奨学金と共に2年間で4年分の学費と生活費を蓄え、実家からの仕送りなしに卒業。子供の時からの夢、消防士になります。遊びや旅行とは無縁の学生生活でしたが、「やり遂げた」というはれどとした気持ちです。周りの温かい励ましに支えられた4年間でし。

地元の成城消防団に入団、消防業務の後方支援をしてきました。顔見知り読者の独居老人の部屋から出火した時は、祈るような気持ちで現場にいましたが、その人は亡くなり痛恨の思い出に。火災予防の大切さを認識しました。その体験も将来に生かしていこうと思います。

夢をかなえる 経営者魂学ぶ

木暮 康雄さん

経営学科、神奈川県横浜市立南高=プリマプロジェクト

「経営学は金もうけのためにあるのではない、夢をかなえるための学問だ。リーダーとしての心構え、経営者マインドを学べ」。1年次の時、担任の笠原伸一郎先生のお話に鮮烈な印象を受け、夢だった起業を現実のものにしよう決意。2年前、株式会社を立ち上げ、古本を全巻でネット販売する「全巻読破.com」をスタートさせました。

大手が目につけない手法でビジネスは順調。しかし「社会貢献と顧客満足を第一に」という理想と現実とのギャップに悩みました。そこに示唆を与えて下さったのが奥村経世先生。「利益は『社会から託されたお金』と認識し、更なるサービス向上を期待されていると考えてみては」。経営戦略の授業で発表の機会も与えていただき、励みになりました。

両先生に感謝すると共に専大で学んだ一つひとつと素晴らしい出会いを今後にも生かしていきます。

最前列で受講 充実の4年間

佐香 翔さん(川島記念学術賞)

二部経済学部総代・経済学科、小林弘和ゼミ、鳥取米子北高=テイケイ

川島記念賞の受賞を家族に知らせたら「おめでとう！よく頑張ったね」と言ってくれました。ゼミは小林弘和教授の「地方自治の可能性と限界を求めて」というテーマを履修し、故郷の鳥取県米子市についての現状課題などを追究しました。

働いて学費を払っていたので、心掛けたことは、授業は貴重な時間という思いから、常に最前列で受講したことです。また、1・2年次に履修した中島巖教授の経済原論IB・IIBは、思考力を向上させられる授業で大変勉強になりました。

私の4年間は仕事(新聞奨学生・警備会社)と勉学の両立で日々充実していました。卒業後も引き続き警備会社で働きますが、将来は地方・国家公務員を目指して、これからも頑張ります。

ゴミ分別主題に「卒制」に取り組む

佐藤 英次さん

ネットワーク情報学科、山下清美・本田厚子プロジェクト、千葉県市立船橋高=武蔵野美術大学大学院造形研究科進学

“文武両道”で掴んだ日本一

佐藤 大さん

経営学科、漕艇部、山形県谷地高=きらやかフィナンシャルグループ

卒業制作のテーマ選びに町を歩き、町の情景やモノを何枚もスケッチして回りました。そこで目に付いたのがゴミ箱。

ゴミ分別に対する一般の意識はまだまだ低い。なぜ分別が必要なのか、認識を徹底させるにはゴミ箱をどのようなデザインにしたらいいかを考えたのです。ゴミ清掃スタッフの写真を張り付けるなどアイデアを出し、生田キャンパスのゴミ箱も利用させてもらいました。その過程で情報デザインの重要性に気づき、大学院でプロダクトデザイン研究の道に進むきっかけとなりました。多くを学んだ「卒制」。栗芝正臣先生のご指導のおかげです。

国際研修館で1年間レジデンスアシスタントを務め、留学生と交流したのも良き思い出です。

勝つために何をするのか。試行錯誤しながらメニューを組み立てて練習に励んできました。漕艇部最後の試合として臨んだ昨秋の日本選手権。4人乗り1000メートルで優勝を勝ち取りました。創部70年、かつては五輪代表の先輩もいた名門ながら長らく優勝に見放されていた専大に96年以來の「日本一」をもたらすことが出来ました。感無量です。自主性の大切さに気づかせてくれた監督のおかげです。

中でも心がけたのは「学業優先」。授業は絶対に休まない。それが確立されていなければ練習に身が入りません。

ケガや「カベ」、も「マイナス」にせず、ひたすら前を見て進んだ4年間。卒業後は地元の銀行に。もうカヌーには乗りませんが、悔いはありません。

言葉いらない 潜りの楽しさ

作森優葉さん
法律学科、岩井宜子ゼミ、高知県土佐塾高＝ブルボン

.....

学びながらチャレンジしたスキndaイビングクラブ愛好会での活動が最高の思い出。気心の知れた仲間と海に潜り、言葉は交わさなくても楽しさが共有できる素晴らしさ…。もちろん危険なこともあります。訓練や経験を重ねることで、自分の限界はどこにあるのかを自覚することが大切。大事なことを学びました。

昨春、沖縄の多良間島で「ダイビング研修生」として活動するチャンスに恵まれ島の人々と交流。珊瑚礁の美しい海を存分に楽しみ、貴重な体験となりました。

インストラクターになりたいとも思いましたが、結局メーカーに就職。ダイビングはいくつになっても出来るスポーツなので、趣味として続けます。

社会人と交流 貴重な体験に

笹目光子さん
経営学科、新井範子ゼミ、東京都佼成学園女子高＝東京海上日動火災保険

.....

ゼミ活動、就職活動やアルバイトなど課外活動を通じて、「学業以外のこと」についてたくさん学んだ——そんな4年間でした。

神奈川産学チャレンジプログラムに参加して、社会人相手に行ったプレゼンテーション、女性管理職の影響についてまとめた「卒論」作業などでは、人の意見を聞き、違った観点から物事を見て「作り出す」素晴らしさを体験しました。

さまざまなジャンルの方々とお話をしたり交流したことで、「社会人になるための心構え」を知り、「人間としての在り方」を考える機会を得ました。そんな体験が、これから社会に踏み出していくうえで方向付けをしてくれたと思います。

「ゼミ」体験 仕事に生かす

須藤可那子さん
商業学科、奥瀬喜之ゼミ、群馬県沼田女子高＝積水ハウス

.....

ゼミの奥瀬先生からは、人に言われて動くのではなく、「自発的に行動する」という社会人の基本姿勢を学びました。

就職活動の初めのうちは一般職志望でしたが、ゼミの研究発表で得た「厳しさの中で苦しんだ分、得るものが多い」という経験を仕事でもしたいと思うようになり、実績を明確に評価してくれる総合職を志望するようになりました。

内定先は女性の営業職の採用実績はまだ少ないのですが、働きやすい環境で、「家族の幸せの実現」をお手伝い出来るという点にひかれました。仕事で困難に直面した時には、ゼミの経験を思い出し、乗り越えていけると思います。

「現場」体験の 大切さを実感

高居佑輔さん
人文学科、今野裕昭ゼミ、千葉県検見川高＝千葉市消防局

.....

フィールドワークや論文課題が多い、社会学の授業のおかげで、入学時に立てた目標「人前で話す力や文章を書く力をつける」を達成することが出来たと思います。

能登や川崎の集落についての調査では、現地の方からいろいろな話を聞き、文献だけでは分からない情報が入手出来ました。「現場に赴き、自分で感じること」の大切さを実感しました。

米国の「同時多発テロ」で、消防士が住民を助ける姿に感銘を受け、人の役に立つ公務員になりたいと志すようになりました。就職課やエクステンションセンターなど、お世話になった方への感謝を忘れず、仕事に取り組んでいきたいと思っています。

探究した会計学 将来は税理士に

竹下直子さん（川島記念学術賞）
二部商学部総代・商業学科、佐藤文雄ゼミ、東京都芝商業高＝専修大学大学院商学研究科

.....

入学するまで一般企業で働いていましたが、会社の都合で仕事と勉学の両立が困難となり、勉学に専念することにしました。

入学当初は心の迷いもありましたが、1年たって自分の選択肢に間違いが無かったことを実感し、それから、資格試験の勉強を始め、在学中に日商簿記1級、全経簿記上級、税理士試験（財務諸表論）に科目合格することが出来ました。

3年次からの佐藤文雄ゼミ（財務会計の研究）で会計学の奥深さを知ったこと、志の高い友達との交流を図れたことで自分が大きく成長したと感じました。卒業後は大学院に進学、租税法を研究し、税理士を目指したいと思っています。

学術奨励金を 誇りと励みに

高橋健志さん
商業学科、手嶋宣之ゼミ、館山高校＝日本電気

.....

3年次までいただいた学術奨励金を誇りと励みにして学生生活を送ってきました。

視野を広げ、就職活動に生かそうと「WAKUWAKUときめき専修21」（就職課主催）に参加。ゼミとの両立が大変な時期もありましたが、学部学年を超えた仲間と協力し、目標に向かってやり遂げることを学びました。

学生寮の先輩に集団面接の練習をしてもらうなど寮生活ならではの工夫をし、9社から内定をいただきました。寮でさまざまなボランティア活動に携った経験から、「発展途上国のITインフラ整備」を目標に定め、最終的に就職先を決めました。

目標を達成出来るよう、語学力を向上させていきたいです。



勤勉仲間に感謝 法専門職目指す

富山智明さん（川島記念学術賞）

二部法学部総代・法律学科、小林弘和ゼミ、東京都足立高＝郵便局

このたびは川島賞をいただきありがとうございます。これも「社会人交流会」のサークル仲間たちが皆、知識があって手抜きをしない人達だったため、私も負けないように努力した結果です。

小林弘和ゼミでは、地方自治の中の「市場化テスト」という題材で、行政業務の民間委託や、官・民合同入札制度を研究し、卒業論文集にまとめました。法学を学んだことで世の中の仕組みが分かってきましたし、深澤民司先生の政治学原論で政治に対する見方も変わりました。

将来は行政書士など法律関係の資格を取って法学を生かせる仕事に就きたいと思っています。

卒論のテーマ「日本の格差」

中村健太郎さん（川島記念学術賞）

卒業生総代・経済学部総代、山田節夫ゼミ、埼玉県伊奈学園総合高＝サンユウ

入門ゼミナール（1年次）の担当だった山田節夫先生に強烈な印象を受け、「日本経済の実証的研究」のゼミに入りました。決められた科目の知識を覚えることが中心の高校までとは違い、大学では興味に応じた科目を選択し学べるわけですから、どの科目も一生懸命に受講し、学術奨学金をいただくことも出来ました。得意な数学を生かせる科目が特に印象に残っています。学生としてやるべきことを普通にやってきたつもりですが、結果を「川島賞」として評価していただき、うれしいです。

卒論のテーマは「日本の格差」。所得格差、地域格差などの現代日本が抱える問題を、学んできたことをベースにまとめました。

書く鍛錬積み「編集」の道へ

萩原由佳子さん

日本語日本文学科、石黒吉次郎ゼミ、東京都武蔵野北高＝調査・企画・編集工房「エンピツむすめ（リテラ）」

現役作家の小林恭二教授の「文藝創作」の講義で、「書くこと」の面白さと難しさの両面を学びました。他の受講生の作品を読み、意見を言い合うことで気づかされる点も多く、先生からは「『書く力』を上げるには、書く経験を積むしかない」と教えていただきました。

就職課の「マスコミ講座」を受講したことをきっかけに、卒業生の小松亜子さん主催の「エンピツむすめ」でフリーペーパー「かれっじ☆まがじん」の発行に携わりました。取材先でのさまざまな出会いなど、勉強になることが多く、卒業後も続けることにしました。学んだことを生かし、「編集・出版」にかかわっていきたくと思っています。

高い意識学んだ 野球漬けの日々

長谷川勇也さん（川島記念体育賞）

体育賞総代・商学部商業学科、山形県酒田南高、野球部＝福岡ソフトバンクホークス

野球漬けの4年間は、楽しいこともつらいこともありましたが「プロ野球選手」という夢を叶えてくれました。

自分で考え、高い意識を持って取り組むことの大切さを部活から学ぶことが出来ました。自分たちが1部でプレー出来ず悔しかった分、「1部復帰」を後輩への置き土産に出来たことには満足しています。個性的なメンバーと過ごした寮生活も思い出深いです。

自分の長所はバッティングと遠投力。福留選手（中日ドラゴンズ）のような攻守に優れた選手を目標に、理想的なバッティングを追求していきたいです。読売ジャイアンツに入団した松本（哲也さん）からも良い刺激を受け、年内の1軍昇格を目指します。

出会いと経験 自分の「力」に

平城 達也さん（川島記念学術賞）

学術賞総代・法学部総代・法律学科、高木侃ゼミ、神奈川県上溝南高＝JTB法人東京

「基礎文献講読」の担当だった神長百合子先生のおかげで、受け身でなく「自分の頭で考えたものをアウトプットする」ことが大学で学ぶ意義だと実感しました。

就職活動で他大生と知り合う中で、「個人の能力に差はない」と、自信をもって自己PR出来るようになり、希望どおり「交流文化産業」を新たなコンセプトとする職種に決まりました。高木ゼミで学んだ「思いやりの精神」を仕事にも生かしたいと思っています。

短期留学したカナダでの韓国人との交流は、本当に分かり合うならば十分な知識がなければならぬことを教えてくれました。尊敬出来る友人にも出会い、いろいろな経験がすべて「自分の力」になった4年間でした。

クリケットで 達成感を得る

馬庭 史佳さん

心理学科、澤幸祐ゼミ、クリケット愛好会、奈良県奈良高＝亀田製菓

クリケット愛好会に所属し、苦楽を共にしたチームで、学生選手権準優勝を果たしたことが一番の思い出です。女子キャプテンとして部員の気持ちのベクトルを同じ方向にそろえることを心がけました。対戦相手を分析し守備のフォーメーションを考え、用具を独自のルートで輸入するなど、「自ら動かなければ何にも始まらない」ことを体感。苦勞した分、達成感も大きかったです。

心理学科は、レポート課題が大変でしたが、多くのことを学び、その経験は社会でも生きると信じています。

就職先では、営業で現場の経験を積み、将来的には統計の知識を生かし、マーケティング部門で活躍出来るよう頑張ります。

自然豊かな豪で ツーリズム学ぶ

三森 優さん

国際経済学科、狐崎知己ゼミ、木下雅夫ゼミ、山梨県山梨学院大学附属高＝アクセス国際ネットワーク

ディベートで 判断力養った

宮部 大さん

経済学科、石塚良次ゼミ、茨城県水戸桜ノ牧高＝千葉銀行

長期留学で語学力を身につけたうえで、ツーリズムを勉強しようと豪州シドニーに1年間留学、国立専門学校で学びました。自然豊かで周りの人にも恵まれたことでこの国が大好きになりました。何よりも留学という“大事業”を成し遂げたことで大きな自信となり、どちらかと言うと引っ込み思案の性格が積極的になったと思います。

北海道人会に属し、北海道へ何度も旅行したことも思い出。卒業論文は、私の大好きな故郷、勝沼のブドウとワインのまちづくりについてまとめました。「留学」と「旅行業に就く」という2つの大目標を達成しました。実りのある学生生活だったと思います。

ゼミ長を務めたゼミ活動。発表やディベートで鍛えられ、それが就職活動に生かされました。3年次のディベート合宿では「郵政民営化の是非」を論じ合いました。直前まで肯定側か否定側か分からず、どちら側についてもきちんと論じられるよう、徹底した準備が要求されます。この体験は貴重で、人前で話す力、チームワーク、リーダーシップ、判断力などが身についたと思います。

就活での自己分析では、フットワークの軽さ、状況判断の切り替えの速さなどを挙げましたが、それもゼミ活動で育てられました。内定後、就職アドバイザーになり、報告会で先輩やご父母に自らの体験を話す機会も得たことも思い出深いです。

卒論書き自信 失敗も思い出

劉 瀟峰さん

商業学科、手嶋宣之ゼミ、中国・北寧市第3高級中学＝専修大学大学院経済学研究科進学

6年前大連から来日。中国経済の将来を考え、ファイナンスコースに学びました。手嶋先生の厳しくも温かいご指導で、ストックオプションをテーマに、半年間かけて卒論を仕上げたことが一番の思い出です。卒論に取り組む過程で学んだ知識が深まり、自信につながりました。卒業後は大学院に進学、証券アナリストになるのが夢です。

自宅は浦安市で、生田までの通学に往復4時間。1年次後期は週6日間全て1限からの授業でしたが、バイトをしながら1日も休まず授業に出ました。中国留学生会の会長も務めました。未熟な日本語での失敗もたくさんありましたが、今では懐かしい思い出です。

旅先や仕事で 出会い広がる

茂木 大仁さん

経済学科、地理学研究会、千葉県成東高＝ジャププラザ J&Fハウス蔵

学内の掲示板で見たインターンシップ募集のチラシから出会いが広がりました。インターンシップ先で感じたのは「自分は組織には向かない」ということ。そんな時、ホリエモンの本に影響を受け、「本州1周ヒッチハイク」に。土地の人にいろいろな話を聞いたり、車に乗れず何時間も歩いたり、運命的な出会いをしたりする中で、素直に人に感謝出来るようになった自分がそこにいました。

知人の紹介で外国人向けゲストハウスの管理人をしています。彼らのポジティブな考え方にいい影響を受け、「いつか起業を」と夢に描いています。「学費は経験のための旅費」と送り出してくれた両親に感謝しています。

● 大学院 法科大学院

地域に密着した「法曹」目指す

山田幸平さん

大学院修士課程修了生総代・法学研究科法学専攻

本学の法学部から大学院に進学しました。学部時代は自由を尊重する校風の中でバドミントンの同好会に所属し、のびのびとしたキャンパス生活を送ってきました。

指導教授は、学部のゼミでもご指導いただいた山田創一教授。ゼミに入る前は苦手だった民法に興味を持つようになり、大学院での研究テーマとなりました。庄菊博教授、田口文夫助教授の授業も印象的でした。

実務家（弁護士）を目指し、4月からは本学の法科大学院に進学。力をつけていきたいと思います。弁護士になるのは幼いころからの夢。小規模でもいい、地域の人々に密着した仕事をやる法曹になれば、と思っています。

“学生思い”の先生方に感動

谷口 昭彦さん

大学院博士後期課程修了生総代・経済学研究科経済学専攻

大阪大学大学院の修士課程を修了し、専門であるSNA(国民経済計算)の研究を深めようと専大の大学院へ。専大にはその分野での権威、作間逸雄、市岡修助教授がいらっしゃるからです。京都出身で、東京の私立大学の知識はなかったのですが、入学して最初に驚いたのは、まもなく創立130年にもなる歴史の重みを持つ大学だということです。

私の修士論文に対して、ある先生から「実際の政策として使えるものか、そこに理論的裏づけがあるか」と思われ指摘をされました。それまでの理論重視の研究から実学にも目を向けよと目を開かされた思い出です。

研究はもちろん、学生思いの教育熱心な先生が実に多いことに感動しました。任期制助手も務めたのでなおさらそう感じたのです。研究と教育という両輪をしっかりと持っている、本来の大学だと実感しました。SNAの探究を志すことによってもたらされた貴重な学生生活でした。

哲学から転換 新司法試験へ

正込健一朗さん

法科大学院修了生総代

筑波大学大学院の博士課程で哲学、現代思想の研究をしていましたが、社会に出てもっと人と関わっていきたくて、思い切った方向転換。新司法試験を志しました。

法律を勉強したことは皆無で、これまでの学問が生かせるかどうか分かりません。しかし、私のような異分野にいた人間が、こんな見方もある、こんな捉え方も出来ると、少し距離を置いた目で取り組むことも意義があるのではと思っています。

最初は基礎を身につけるのに精いっぱいでしたが、刑事訴訟法、労働法を、年間を通して受講したことで「法」は私たちの生活そのものの中に、の身近な存在としてあることを、改めて認識しました。

まずは試験突破。そして自身のテーマである「個と集団の調和」を、この世界で見つけていきたいと思います。

【2006年度卒業・修了 記念特集】

2006年度卒業生数・修了者数

2006年度(平18)専修大学卒業生数

学部	学科	一部	二部	計	
経済	経済	597	97	908	
	国際経済	214	—		
法	法律	725	145	870	
経営	経営	643	—	644	
	情報管理	1	—		
商	商業	530	87	823	
	会計	206	—		
文	国文	3	—	646	
	日本語日本文学	日本語学	64		—
		日本語日本文学	104		—
	英米文	0	—		
	英語英米文	167	—		
	人文	1	—		
	"	哲学人間学	57		—
		歴史学	76		—
		環境地理学	53		—
	社会学	75	—		
心理	46	—			
ネットワーク情報	ネットワーク情報	240	—	205	
合計		3802	329	4131	

2006年度(平18)大学院修了者数

研究科	専攻・コース	修士課程	博士後期課程	計
経済学	経済学(下記以外)	24	1	29
	経済学(ファイナンス)	2		
	経済学(エコノメトリックス)	2		
法学	民事法学	—	0	17
	公法学	0	1	
	法学	16	—	
文学	日本語日本文学	9	4	44
	英語英米文学	3	0	
	哲学	1	0	
	歴史学	6	5	
	地理学	1	0	
	社会学	2	0	
	心理学	13	0	
経営学	経営学(経営学)	5	1	8
	経営学(情報管理)	2	0	
商学	商学(アカデミック)	11	0	31
	商学(ビジネス)	20		
合計		117	12	129

2006年度(平18)専門職学位課程修了者数

--	--	--	--	--

